

2018年度 9月入学式 総長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

新入生の皆さん、ご家族・ご友人、ご関係のすべての皆さま方に、早稲田大学を代表して、心からのお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日、晴れて2018年度9月入学式を迎えられた新入生は、学部357名、大学院650名の合計1007名に上り、その85.5%にあたる861名の方が、海外からの留学生です。世界の各地から多くの前途ある優秀な人材をお迎えできたことは、本学にとってこの上ない喜びです。

早稲田大学は、今から136年前、1882年10月21日に大隈重信らによって設立された私立大学です。

当時の日本政府は、一刻も早く欧米の先進国に追いつこうと考え、国立の大学を設置し、官僚の早期養成のために、欧米の制度をそのまま外国語で学びとうとしていました。これに対し、本学の創立者である大隈重信や小野梓らは、これとは異なる理念をもって本学を創設しました。

すなわち、特定の時代の特定の権力に奉仕するための学問ではなく、普遍の真理を求める学問、世界の人類全体の幸福につながる学問、すべての市民が自立した判断力を備えることで強固な市民社会を構築するための高等教育の普及を目指して、「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」を理念とする本学を設立し、日本語で日本の実情に合った教育研究を進める一方で、広く世界で活躍する人材の育成を目指して、創立直後から門戸を世界に開き、多くの留学生を受け入れ、在学生・卒業生を海外に送り出して参りました。

こうした建学の理念に共鳴して、進取の精神にあふれた多くの若者たちが日本各地、世界各国から早稲田大学に集まり、政治・経済・学術・ジャーナリズム・芸術・スポーツなど極めて幅広い分野に、多彩な人材を輩出し続けるグローバル大学へと発展してまいりました。

学術の分野では、1895年に本学を卒業して、日本人として初めてイエール大学教授に就任し、日米開戦の回避のために最後まで努力をした朝河貫一、1896年に本学を卒業して、コロンビア大学に日本文化研究所を設立し、本学名誉博士ドナルド・キーンをはじめとする数多くの日本研究者を育てた角田柳作などがいます。政治の世界では、不屈の精神をもって軍国主義に反対した多くの政治家、石橋湛山を初めとする7名の日本国内閣総理大臣、中国共産党の創設者の李大釗、陳独秀などが、外交の世界では、本国の命に反して「命のビザ」を書き続け、6000名ものユダヤ人難民の命を救った杉原千畝などが、早稲田で学びました。芸術の分野では、村上春樹を初めと

する極めて数多くの作家、音楽家、俳優、映画監督がおり、スポーツ界においても数え切れないほど多くのアスリートが世界で活躍しています。経済界においては、ソニー創業者の井深大やサムソン電子を世界ブランドに育て上げた李健熙、ユニクロの柳井正、そして、本日のご来賓、メルセデス・ベンツ日本株式会社代表取締役社長兼 CEO の上野金太郎様をはじめとした多くの卒業生が世界中で大活躍をしており、英国の大学評価機関「QS 社」が卒業生の活躍ぶりを評価した大学世界ランキング「QS Graduate Employability Ranking 2019」において、本学は、世界で 27 位、国内私立大学では 4 年連続で第 1 位という高い評価を受けています。

新入生の皆さんにも、是非とも、この本学建学の理念を胸にとどめ、多様な才能を大いに伸ばして、世界各地で、また、ありとあらゆる分野で、先輩たちに勝るとも劣らぬ活躍をしてほしいと期待しています。

なお、こうした本学の歴史と未来への展望をより深く知って頂くために、本年 3 月に早稲田キャンパス 1 号館 1 階に「早稲田歴史館」を開館いたしました。本学の創設者や偉大な先輩方の功績に係る資料などを多数展示しておりますので、皆さんには、是非、この歴史館にご来訪頂き、より早稲田を身近に感じ、本学の学生としての誇りを抱いていただきたいと思います。

さて、今日の社会には、飢えと貧困、地域間紛争、大規模な環境破壊など地球規模で解決されるべき課題が山積しています。皆さんには、国境を越えて多様な価値観・多様な文化的背景を持った人々と協働しながら、これらの難題に立ち向かい、世界の平和と人類の幸福の実現に向けて力を尽くすことが必要とされています。

また、IoT、AI などが急速に発展する第 4 次産業革命の渦中であって、次の時代を支える皆さんには、既存の知識をただ覚え込むだけではなく、困難な課題に果敢に挑戦し、イノベーションを実現する創造力や、人間ならではの情緒や感性を磨くことも強く求められています。

こうした現代社会の行方を見据えて、早稲田大学では、「人間力・洞察力を備えたグローバルリーダーの育成」、「未来をイノベートする独創的研究の推進」などを目指して、大胆な改革を進めています。早稲田大学の考える「グローバルリーダー」とは、グローバルな視点をもって、多様な価値観・文化的背景をもった人々との相互理解を深め、地球社会の繁栄と人類の幸福のために貢献する人材のことです。そうしたグローバルリーダーになるためには、鋭い洞察力、論理的思考力、幅広い教養、高度の専門的知見、優れたコミュニケーション能力や、チャレンジ精神、問題解決力、実行力等を兼ね備えていることが望まれます。

それらの能力や資質を育むためには、個性豊かで多様な人材が切磋琢磨する中で自らを磨き上げること、現実の社会に存在する問題とそれへの対処法の多様性を前提と

しつつ、問題の本質を見抜き、主体的に調査・分析、解決策の策定をする経験を積み重ねることが有益であると考えられます。

そのために、早稲田大学では、世界各地から多様な学生を受け入れ、日本人学生の海外派遣を促進しています。その結果、現在本学には年間で約 7500 名の外国人学生が在籍して、授業やサークル活動の場で、日本人学生と外国人学生が多言語で議論をし、相互理解を深める機会に満ち溢れています。一方、毎年約 4,000 名以上の在学生在が海外留学に赴き、多様な文化に触れ、世界最高水準の高等教育機関での学びに挑戦しています。

また、本学では、年間約 5 万人の社会人が学んでいますし、少子高齢化が急速に進み衰退しつつある農山村での生活体験、国内外の一流企業での就労体験、国や地方自治体の公務員とともに政策を策定する体験など、多様な体験型学習の機会も数多く提供しています。

また、研究面においても、英国「QS 社」が発表した研究分野別の大学世界ランキング「QS World University Rankings by Subject 2018」において、早稲田大学は 8 分野が世界 100 位以内、24 分野が世界 200 位以内にランクインするなど、世界的にも高い評価を受けています。

皆さんには、日本で最もグローバル化対応が進んだ本学の教育・研究環境、体験型学習を含めて主体的に学ぶ力・考える力を発展させるための優れた教育システム、世界水準の研究環境などを存分に活用して、互いに切磋琢磨することにより、グローバルリーダーとしての能力を伸ばすとともに、個性豊かで多様な友人を数多く作って欲しいと願っています。

本学の創設者・大隈重信は「学問は一生涯の事業」と言っています。早稲田大学が提供する多種多様な教育研究プログラムを最大限に活用して、皆さんにとって「一生涯の事業」となる学問を終生にわたって力強く進めるための基礎力を涵養してください。

新入生の皆さんが実り多い学生生活を送り、洋々たる前途を切り拓くことを強く祈念して、私からのお祝いと歓迎のご挨拶とさせていただきます。

改めまして、皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。

以 上